

# ある大手筋の話



歩道にせり出して並ぶ路上八百屋の新鮮さと激安に、しばし指をくわえるばかり。パッセージなやまちというハイカラな名と造りの割に安い店が並ぶ商店街の先は坂本龍馬ファンの聖地・寺田屋が控えている。

四条あたりからおけいはんに乗ると、鳥羽街道なんて当たり前で、深草、藤森、墨染とうつとりするような駅名が続き、何処でも降りたくなってしまふけど、ぐつと我慢の伏見桃山。駅を降りた途端、いきなりのアークードは大手筋商店街。秀吉が、伏見城築城の際に造営した由緒正しき一本道は、今も目抜き通りの座を守る繁華街。振り返れば、だから坂道の先に近鉄京都線・桃山御陵前駅のガード、その先には大手通りを守る大鳥居が聳える。



となれば伏見の酒処。宇治川に注ぐ派流の岸に酒蔵続くお約束の風景。水が良いなら銭湯も湯で、お燗がついたら夕間暮れ。眼の前の中書島か大手筋に戻るか。スタートから日本酒で。

**勝手にお気に入り5**  
雨の日に行きたくなる場所ベスト5

- ・小石川植物園
- ・根津美術館の庭園
- ・東京国立博物館の法隆寺宝物館
- ・清澄庭園
- ・末広亭の一階席
- ・京都・松原橋、大阪なんば、なんなんタウン、横浜野毛、都橋、大阪心齋橋・御堂筋。

## 高野金次郎商店

**親切第一 平成30年梅雨号**

版元:東京ペンギン堂本舗・高野ひろし 豊島区北大塚2-26-1  
 fax:03-3917-1949 RXM04421@nifty.com  
 協力:高島平電腦研究所、築地河岸工房  
 関連ウェブ:各種検索エンジンで「東京ペンギン堂本舗」検索するとボータルサイトに辿り着けます。http://shiosenbe.booo.jp/

# 銀の輔銀座千枚



室から見渡すのもいいけど、教文館カフェの窓際席から、傘の花畑見おろすのも楽しい。木々の緑も鮮やかさを増すから、柳通りなんか最高だ。でもね、西銀座通りから昭和通りまでの並木道の柳は、なんだかヒョロヒョロか細くて、ちょっと頼りない。地下鉄の銀座一丁目駅の出口にある一本だけ、まるでこの通りの顔役みたいに威風堂々たる枝ぶり。

雨は案外嫌いじゃない。その代り、ホドホドの雨に限るけど。銀座って、ヒニ傘率が低いと思うんだけど、きつと気のせいかなだろうな。建物も道もしつとり濡れた中で動くカラフルな傘の群れは、なかなかの風景。キムラヤのカフェや鹿の子の喫茶でも昭和通りの先を忘れちゃ駄目。中央分離帯があつて横断歩道が遠いけど、この柳並木は綺麗なんだ。しかも紫陽花も一緒にさき、雨の銀座のとっておきコース。脇に入るとイカす路地奥パーがあつたりして、雨の銀座の遊り方も一杯あつて話。



# 上方ブルルン巡礼

新世界は旧世界。この数年で思い切り観光地になっただけで、変わる気配すらない風景が充満している。その牙城のひとつが新世界市場。イカすポスターを作ろうと、新店舗が入ろうと、開かぬシャッターが増えようと、手芸屋や金物屋や洋品屋や、その脇道の風景が、ぎゅっちり平成を拒絶してる。

中山菓舗というより町のお菓子屋さん。和菓子も洋菓子も何でも来い、ケーキじゃなくて洋菓子な感じ。屋号を冠したロールケーキも惹かれるけど、見るからに穏やかなプリン、しかもいいのか百円で？と匙をさせば、その表面の硬さに食す前から目頭が熱くなる。サラッとしたカラメルソース共々、「おやつ」という肩書が似合う。しかし蓋に付いた店のシールはごまかでもモダンでハイカラ。

四条通りを堺に、京都屈指の賑わいが続く寺町通り、三条通りを過ぎてからの緩さがたまらない。道幅も広がり、店の顔も観光ムードがやや薄れ、東京とは異なる古書店の佇まいや、店の手前からそれと分かる香りが漂う鳩居堂の黒尽くめの並びに、内部が想像出来ないスマート

珈琲店の小ぢんまりした玄関がある。美形である。気取りはないが品のある風情に相応しい味わい。周辺のへこみは蒸し焼きの証、そして大人チックなカラメルソースが、しっかりと味をまとめる。このガラス器も何年使ってるんだろう？二階窓際の特等席で、行き交う人を見おろしつゝ食す幸せ。無論コーヒーと共に。

千日前、アメリカン無しには夜も日も明けぬ。膨大なメニューはどれも昭和モダンの内装を裏切らない味と風景、勿論プリンもぎゅっちり。生クリームとチェリーを添えた店で食べるのもいいけど、

お店のイメージよりも明らかにポップな、持ち帰り用の蓋のロゴを眺めつつ食べるのも一興。星のマークの向こうに見える焦げ目がまた気分を盛り上げるではないか。やあつさりした味と滑らかな食感の程がよく、正にアメリカンテイスト。同じシヨーケースに並ぶケーキは、どれもこのプリンに列するに相応しい、郷愁の風景。もし店内で頼むなら、シンフルなプリンもいけど、フルーツや生クリームが横長にとっさりデコレートされたプリンアラモードも。

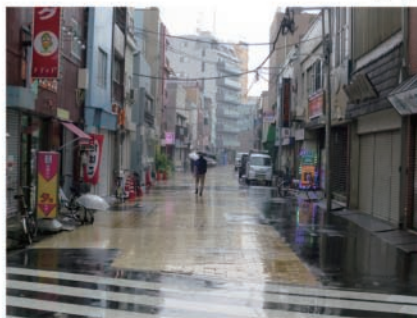
く、完成度もなかなかの逸品。地下にこそっと佇むコンパクトな御多福珈琲なのに、そのやんちゃな大盛りプリンが嬉しい。やや深いアイスクリーム用の皿に目一杯の本体と、こぼれんばかりのカラメルソースは、初めて頼む者を皆微笑ませる。豊かな弾力とバランスの取れた濃厚さ、そして最後までしっかりと残ってるほろ苦いソースの量に感動する。勿論甘いコーヒーと共に。。

大阪でも古手の喫茶店チェーン・心齋橋ミツヤも、今風なカフェとは一線を画したメニューが並ぶ。店だとソフトクリームがドリンクと乗ってしまつので、よりプリンを楽しみたい向きには、同じ傘下のカフェエブリークで単品買という手をお勧めしようか。お洒落なシールは貼ってあるが、質実剛健、濃厚にして硬めの美しいボディが展開される。穏やかなカラメルソースも麗し





本日休業花の吉原走り梅雨 梅里  
営業中緑豊かな旅館あり



アーケード消えて涙のタイル道



山谷吉原雨の旅



波型トタン魅惑の小道輝きて



しつとりと濡れて艶めく曲がり角

高級旬誌  
俳人同様  
Haijin Doyo  
三朝庵梅里 筆  
SAN CHO AN BAI RI

天に穴あく雨季真つ只中、緩急自在の降りように、どんより空気が絡み付き、車も人もチラホラと、寂しき馬道土手八丁、枝ぶり少し怪しいが、水気含んでイキイキと、見返り柳の葉の雫、大門跡も溝跡も、しゅんと沈んで沈黙に、呼び込み兄貴は思案顔、するり横道入るなら、怪しきネオン皆無にて、更に静

かな住宅街、斜めの道や行き止まり、幅変化する謎の道、その一角にモルタルの、年季の入った建物の、角の丸みが意味深で、独り合点で仲之町、馬道亘って商店街、いろはどろした濡れ風、天井高く薄暗い、アーケード消え丸裸、路上にスラリ並べてた八百屋もどこか所在なく、明る

さだけは増したけど、何があつたか無かったか、左右の道に迷い込み、敷石輝く魅惑の小道、格安旅館はチャリの群れ、飲み屋の前もチャリ大群、ムーミン一家が住みそうな、密林アパート建材で、玉姫神社もしつとりと、静まり返った梅雨の午後、吉野通りに出たならば、相変わらぬ閑散で、泣く子と雨には勝てやせぬ、いつまで続く空模様、泪橋から振り向けば、スカイツリーは雲の中。

## 北口番外編 東京大塚カウンター異聞 K'sバーの人々

あれからたった数ヶ月、大塚はやたらメディアの相上に乗る町になり、その真只中にある僕は、何だか落ち着かない日々を送っている。最後にこの扉を開けたのは、いつのことだったろう…。

\*\*\*

「おや、町内の有名人の登場ですな、おはようさん」「こ無沙汰でした、おはようございます。有名人じゃないですけどね」「いやいや、立て続けに見ましたよ、テレビで」「あ〜すいませんすいません、失礼しました」「いいじゃないですか、なんでも宣伝してくれりゃ、町を知って貰うだけでも意味がありますよ」と

微笑む鐘ヶ淵さんの顔を見ると、やっぱりホツとする。

「いつかは、少し落ち着いたんですな、うちの店の開店時に挨拶に来てくれて以降、通り掛かっても何時ものように話し込まず、挨拶程度で帰っちゃうのも、慌たしい僕のことを気に掛けてくれるからに違いない。馬鹿話のTPOをちゃんとわきまえてるのが、いかにも街の人らしいや。」「はい、案外あつという間にね」「でも今度のお店はアナタにとって天国でしょ？店の中にはベンギンしかなくて、目の前には都電が走っている」「これで何もしなくて済んだら最高です」「フフフ、そりゃアナタ、バチが当たりますよ」「前の一軒家より随分狭くなっちゃって、それで変な雑貨を置く余地が無くなったっていうのもあるんですが…」「ベンギンさん、贅沢ってもんです」「ですよね、やっぱり」「でもこうなっちゃうと、前にも増してガラス屋さんかどうか分からなくなりやしませんか？」「そうなんですよー看板の代わりに下

げた硝子店の暖簾を見て、ガラス細工の店だと思って来るお客さんが多くてね」「ハハハハ、ほら前にアナタ、今度の店は綺麗過ぎて、前の店みたいな怪しい雰囲気が出せないってばやいてたでしょ。もうあのステキな暖簾だけで充分怪しいですよ、鐘ヶ淵さん流のエールを聴きながら飲む極上の深煎りコーヒィ、やっぱり最高だ。

「そついや駅前前のドンキもオープン間近ですね」「でっかい看板が賑々しいです」「車道のあるガードの横に立つマンションの一回にも、ようらくテナントが入って」「ドンヒザですよね」「一心病院前のマンションも、ほぼ出来上がったみたいで」「一階にはコンビニが入るそうですよ」「大塚ビル跡地も基礎工事が始まって」「大塚北口の変わり方が激しいですよ」「激し過ぎてしょう」。

「ベンギンさんの飯店舗があったところ、あの提灯だらけの飲み屋街には驚きましたねえ」「いやあ〜僕もびつくりでした。だって工期が一ヶ

月掛からなかったんじゃないですかね、凄まじい勢いでしたもん」「深夜まで職人さんが仕事してましたから」「何だか不思議な空間になっちゃった」「僕が子供の頃は、繁屋さんベンキ屋さん熱帯魚店、そしてボクシングジムとかね、町並みって感じでした」「向かい側は銭湯でね、隣が八百屋さん」「そうそう、よく買い物に行かされました。玉子なんかバラ売りで、初穀に埋まって、その時代は、今の左右二つの踏切の間に、もう一つ踏切があつて、銭湯に行くにも八百屋さんへの買い物にも楽ちんだった。「銭湯の名前が花の湯だったから、今も花乃マンションなんです。あの一階にある焼き鳥屋のご主人は、花の湯の息子さん、僕も割と最近知ったんだだけ

ど」「別の物が経つと、前はなんだったか、すぐ忘れちゃいますね」「そうですね、ボクシングジムと熱帯魚店の間に数軒の家があつたけど、記憶がスボツと抜けてしまつて…」「何でもかんでも覚えてたら、人の頭は思い出でパシクしますよ」「良いことばかり都合よく覚えてませんしね」「でも案外都合よく出来るみたいですよ、アタシ達の頭ん中ってのは」

\*\*\*

「ごんちわっじゃない、おはようオジサンー」、扉を開けると同時に元気な声が狭い店内に響き渡る。来たな、あの子が。「あつ有名人みつけー」と僕を指さして大爆笑。半世紀くらい前の思い出時間が断ち切られた。何が變わつても、ここだけはいつも通り。

### 編集後記のようなもの

もはや月刊体制に戻れないのではと思う今日この頃です。フィルムカメラを持ち歩く余裕がないのも残念です。慌たしい毎日を送ってる、持ち歩く気分にならないんです。写真を楽しむ

気持ちが必要なのがフィルムカメラなんです。★配布協力感謝・千駄木・古書ほうろう、吉祥寺・フックスル・エ、雑司ヶ谷・旅猫雑貨店、法善寺橋丁・洋酒の店路、築地・ふげん社、浅草・珈琲アロマ、本駒込・青いカバ、大塚・ベンギン堂雑貨店